



第 15 回

日本には南北問題もある・角倉了以

作家 童門冬二

山岳部と臨海部の物流ルートは川

角倉了以は戦国末期から江戸時代初期にかけて生きた京都の豪商である。家は土倉業(どそうぎょう。質屋)をいとなんでいた。しかし了以はあるとき考えこんだ。それは、

(他人の財産を預かって座ったまま金融をしていることが疎ましい。もっと世の中のためになにかできないものか)

と考えこんだのである。そこでチエを借りるために仲のよかった備前(岡山県)の岡山にいて友人の商人にヒントを貰うことにした。その家に行くと友人は、

「家が狭いから、川に舟を浮かべていろいろ話そう」といって、舟遊びに誘った。いろいろな話をしているときに了以は気がついた。それは乗った舟のまわりを、川上へいく舟や川下へ下る舟が彩しかったことである。よくみると、荷をたくさん積んでいた。了以は友人にきいた。

「川上に行く舟はどこへいくのだ?」

「津山だよ」友人は答える。

「川下は?」

「瀬戸内海だ」友人はそう答えた。そしてこんな話をした。

「この国(日本)では、モノの流れやヒトの流れをよく東西で考える。しかも西がすすんでいて、東は劣っているという"西高東低"の考え

が定着している。しかしわれわれはそうは考えない」

「どう考えるのだね?」了以の問いかけに友人はこう答えた。

「一言でいえば、狭いこの国にも東西だけでなく南北があるということだ。いまあなたがみている舟のうち川上へ向かっているのは津山というところに行く。津山は、もう山の中になる。つまり中国山脈がずっとつづいている。そこでは臨海地と違って生産できるものが違う。炭・豆・タバコ・鉱物などが生産される。しかし、臨海地とは違って米がとれない、塩が不足する、さらに野菜も限られているなどの格差がある。われわれは、この山地と臨海地との間でできる品物の交換を思い立ったのだ。つまり北方の山岳地帯と、南方の臨海地帯との物流交換を考えたのだよ。それがいまあなたがみている舟だ」

「なるほど」

了以は感心した。友人のいう、

「この国(日本国)にも、東西問題だけでなく南北問題もある」

という指摘が、新しい発見だったからである。

了以はじっくりとものを運んでいる舟をみた。底が浅い。

「舟は全部底が浅いようだな」そういうと友人はうなずいた。

「この国の水田地帯で使われる舟を利用してい

る。底が浅いのでものがたくさん乗る。高瀬舟というのだよ」

「高瀬舟？」了以は繰り返した。かれの頭の中に大きな閃きがあった。それは、かれの住む京都を中心にして、日本の南北の問題をもう一度考えてみようということだ。とくにそれを物流の問題で考える。いってみれば、

「大坂湾と日本海をつなぐような物流ルートを設けよう」

ということである。とくに京都にその中心になるパイプを設けようと考えた。

高瀬川の開発

京都の西北には琵琶湖がある。当時は"ヒトは土の道・モノは水の道"という考えがあって、もの多くは水路によって運ばれる。舟のほうが多種・多量の品物を運べるからだ。したがって了以が考えた、日本海の物資を大坂湾に運ぶためには琵琶湖が利用できる。琵琶湖の北方には鶴賀港がある。ここをひとつの集積地にしよう。そして琵琶湖を通じて品物は山越えをして京都に運ぶ。京都には鴨川があるがこれは流れが速くて使えない。東方を琵琶湖から出た宇治川が流れているがこれが淀川に注ぐ。しかし宇治川もそのままでは使えない。結局、

「新しい水路がいる」と思った。了以はチャレンジ精神旺盛だったから、

「自分の手で新しい水路を設けよう」と思い

至った。そこで幕府に願い出て許可を得た。結果了以がつくったのが現在の高瀬川である。いまとは違ってもっと幅も広く水深も深かった。ただし

了以は、

「すべてわたくしの経費で掘削をおこないます。元をとるために、高瀬川を利用する舟からは通行料を頂戴したい」といった。幕府役人は、「おまえはしっかりしているな」と笑ったが、許可してくれた。

高瀬川には岡山でみた底の浅い舟を使った。いま"高瀬舟"といい、またこの川を"高瀬川"というのは、了以がすべて備前の国から学んだことをヒントにしてつくったものである。

高瀬川の設定によって、日本海側からの海産物を主とした品物が届けられるようになった。京都を経て淀川に入り、今度は舟であちこちにさばかれる。つまり了以は岡山で学んだ、

「日本にも南北問題がある」

という考えを、自分なりに消化して水路を設定し、日本海と瀬戸内海とを結びいけば"物流ルート"を新しく開発したのであった。

この成功におどろいた幕府は、その後角倉了以を国内の河川改修の技術者として登用する。了以が改修した日本の河川はたくさんある。しかしその了以の頭の中には常に、

「この国の南国問題を解決するのは、やはり生産物の交流にある。それが山に住む人びとと、臨海地帯に住む人びとのくらしの平均化をはかる」

と考えていた。それは当時の"水の道"である河川のほとんどが、南北に流れていたからだ。南に流れる川は太平洋や瀬戸内海に注ぐ。そして北へ流れる川は日本海へ注ぐ。東西に流れる川はそれほど多くはない。これは角倉了以が土倉業者からインフラ(基盤整備)業者に変わる大きな発見であった。